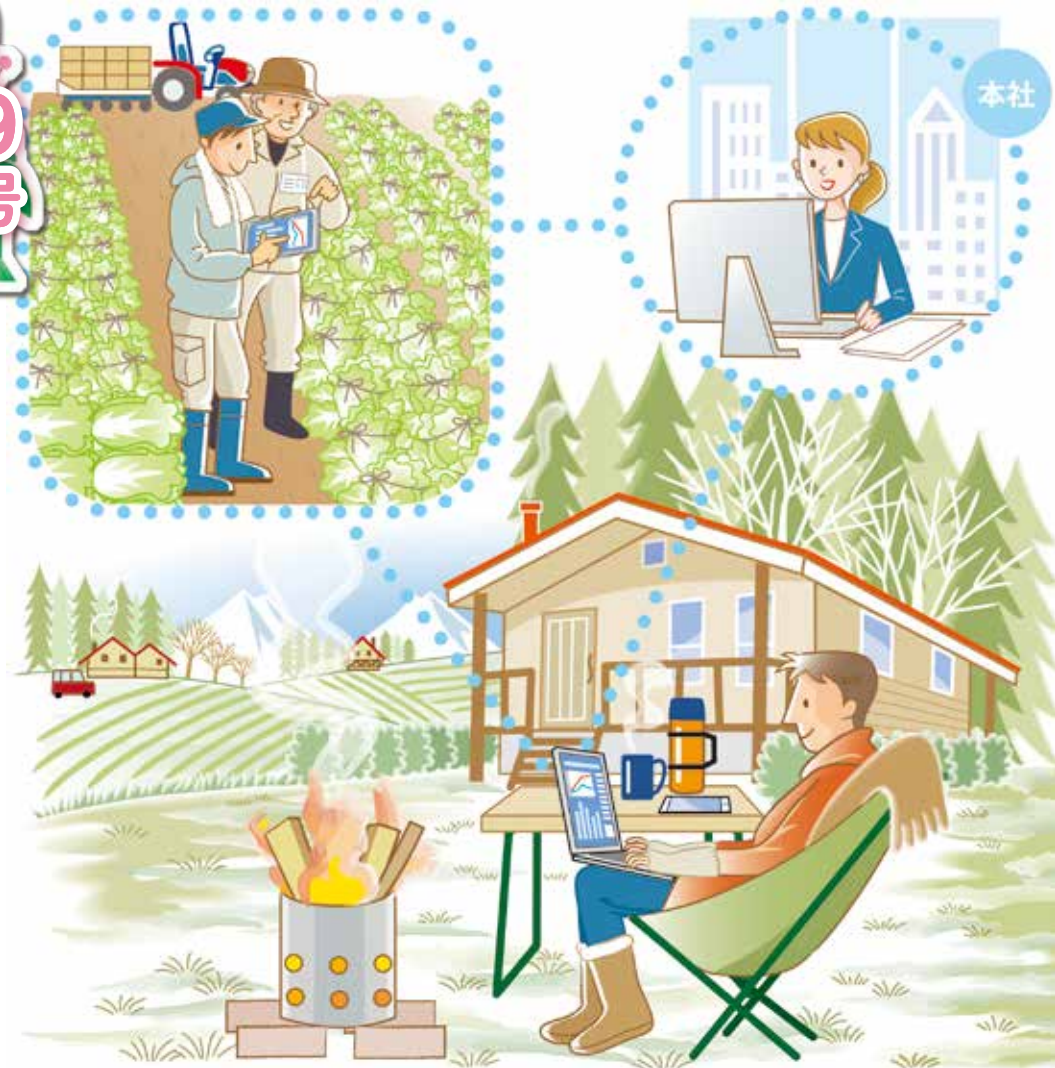


# ネット ワーク 通信

特集 企業の地方創生活動……………	1
パナソニックグループ	
企業施設リポート……………	3
テイジン未来スタジオ(東京)	
企業・団体のCSR活動……………	5
資生堂 西武鉄道	
池上 彰氏がSDGsを解説……………	7
オンライン「生活者の企業施設見学会」……	9
カルビー広島工場	
参加者からの声／ご意見・ご感想……………	11
経済広報センターニュース……………	13

2022  
No.89  
新春号



# 特集 企業の地方創生活動

## 「兵庫県淡路島で取り組む“人材誘致”による地方創生」

株式会社パソナグループ

2020年にパソナグループが発表した兵庫県淡路島への本社機能一部移転に関するプロジェクトについてお聞かせください。そもそも地方創生に取り組み始めたのはなぜでしょうか。

当社は、雇用創造や、就労支援、新産業の創出を目的に、全国の自治体と共同で「人材誘致」による独自の地方創生事業に取り組んでいます。兵庫県淡路島での事業は、2008年に農業の活性化・独立就農を目指す方の支援を目的に「パソナ・チャレンジファーム」を開設したことをきっかけにスタートしました。

淡路島では、日本の地方創生事業の一つのモデルとなれるよう、農業をやりながら音楽やアートを学ぶ「半農半芸」など新しい働き方の発信、音楽など芸術分野で活躍する人材の雇用創出、地元の豊かな食材などを生かした観光施設の開設など、様々な取り組みを行ってきました。

そしてその取り組みを対外的に発信することで淡路島の魅力を知ってもらい、淡路島への更なる観光客の誘致や、関係人口の創出、移住などの実現に寄与したいと考えています。

当社の企業理念は、「社会の問題点を解決する」です。事業がどのように社会課題を解決するのかという、大義名分が背景にないとパソナグループでは事業が認められない社風があります。当社の企業姿勢をあらわす言葉の一つとして、「企業という車は利益と社会貢献の両輪が相まって前進する」があり、これはSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）にもつながっています。こうした企業姿勢が今の時代に合っていると思います。

本社機能の一部を東京から淡路島へ段階的に移転すると2020年に公表されました。なぜ淡路島なのでしょう。

淡路島を選択した理由は、以前から着々と事業基盤を淡路島でつくってきたことが大きいです。淡路島というと、関西圏以外の皆さんはどこか遠くにある島のイメージを持たれるかもしれませんが、しかし、淡路島は神戸から車で30～40分程度で往來することができ、ロケーションに恵まれていることも、移転の決め手になりました。

私たちは、独立就農支援を皮切りに、宿泊・飲食・レジャー施設の開設や、人材育成・雇用創出事業などのプロジェクトを通じて、現地に基盤をつくってきました。また、それに加えて、今回の移転決断には新型コロナウイルス感染症の拡大が大きな影響を与えました。在宅ワークを推進した結果、自宅でもこれだけ仕事ができるのであれば、本社機能の一部を東京から遠隔地へ持って行っても何とかなる、東京だけでは何かあったとき会社の機能が止まるリスクがゼロではない。事業継続も含め、豊かな自然や事業基盤を構築しつつあった淡路島への移転を決断しました。

現時点で230名程度の社員が淡路島に移ってきています。経営企画などのコーポレート部門等の部署を中心に移転を考



淡路島のオフィス

たが、インサイドセールスなど、一部オンラインで対応可能な営業部門についても、随時検証しながら移転を進めています。

**移住した社員の方々の感想はいかがでしょうか。また地域住民の方々との交流はどのようにされているのでしょうか。**

移住した社員からは、通勤に電車を使用しないことが快適で、時間の使い方が豊かになったという声が多く寄せられています。地域の方々との交流については、例えばお子さまのいる社員が淡路島へ転勤した場合、学校や保育園で社員と地元のお子さま同士が友達になり、それが親同士の付き合いにつながるという形で交流が進んでいます。現地採用も積極的に行っており、当社の様々な部署で地元の方々に活躍いただいています。また、当社の観光・飲食施設ではできるだけ地元の企業に資材や食材を発注しています。そこから少しずつ地元との関係を構築できればと思っています。

淡路島には大学がなく、高校を卒業して進学する人は全員島外へ出てしまうと、その後島へ帰ってきて就職するケースが少ないこともあり、年々、島内の人口が減少傾向にあります。今後当社は、さらに島内に雇用の場をつくっていくことにチャレンジします。大学卒業後にオフィスワーカーとして働く場所が淡路島にあることを示し、島外へ出た方のUターン就職の流れをつくっていきたいと考えています。

**地方創生ファンドや農業にも取り組まれています。今後の展望を教えてくださいませんか。**

先日、地方創生ファンドを活用するビジネスコンテストを東北地方で行いました。多数いただいた応募の中で志のある起業家との出会いもあり、実際に業務提携・出資などの相談を進めています。今後も積極的にこのファンドを使い、地方で新産業の創造を目指す起

業家を応援していきたいと思っています。

また、農業分野での取り組みは、まだまだ休耕農地の多い淡路島を中心に引き続き進めていく予定です。

**全国の地方創生支援活動については、コロナの影響はありましたか。**

観光を中心に取り組んでいた地域は、一時的に痛手を負いましたが、今は海外へ行けないのでマイクロツーリズムのような近場への観光に需要があり、ワクチン接種の進展により国内観光は復活してくるのではないかと考えています。コロナウイルス感染症の拡大で、オンラインでの交流や会話が増え、東京の高度なスキルを持った人材が地方の企業や自治体を助けたり、フリーランスの方々が、業務委託やコンサルティングにより遠隔地を支援したり、そのような事例がいくつもでてきています。

**貴社の地方創生活動の取り組みを一般の方が見学できる機会はありますか。**

当社が淡路島でどのようなことをやっているのを見に行きたい、視察したいというご要望を企業や一般の方から多数いただいています。地方創生の可能性を探る上で何かの参考にさせていただければと思いますし、淡路島に足を運んでいただくことにより地域の活性化にもつながります。コロナの状況を見ながらではありますが、そのような声に応えるために視察交流ツアーを組もうという話がでていて、新神戸からツアーバスを出して、宿泊や食事をご案内し、淡路島での実際の生活や仕事について当社の現地社員との情報交換を中心に交流いただける機会を設けられたらと思っています。ぜひ一度淡路島へお越しいただいて、島の魅力を大いに味わっていただきたいです。

聞き手 常務理事・国内広報部長 佐桑徹  
(文責 主任研究員 大藤由貴)

# テイジン未来スタジオ

帝人株式会社

## ■概要説明

帝人グループは、1918年に日本初のレーヨンメーカーとして発足しました。現在は「マテリアル」「ヘルスケア」「IT」という異なる領域で事業を展開するユニークな企業体で、「環境価値」「安心・安全・防災」「少子高齢化・健康志向」の3領域のソリューションで社会課題の解決を図り、持続可能な社会の実現に貢献しています。

「テイジン未来スタジオ」は、帝人グループの最新の技術や製品・サービスを紹介するショールームとして、また、研究開発や事業創出のきっかけとするためのコラボレーションスペースとして2007年11月に開設され、2019年11月に全面リニューアルをしました。今回は、コロナ禍によりリアルでの見学に代えて実施しているオンラインツアーに参加しました。

## ■展示内容

展示ゾーンは、「Mobility (モビリティ)」「Life Style (ライフスタイル)」「Healthcare (ヘルスケア)」「Safety (セーフティ)」の4つで構成されています。

### 「Mobility」ゾーン

まず「Mobility」ゾーンでは、オリジナルコンセプトカー「PU\_PA®Ⅲ (ピューパ スリー)」を見学しました。コーポレートカラーである赤色を基調としたボディが、目を引きまします。重量は約400キログラムと一般的な軽自動車の半分以下で、昨今のCO<sub>2</sub>削減のニーズに対応した軽量化を実現して



「PU\_PA®Ⅲ」

います。「ピューパ」には「さなぎ」という意味があり、「さなぎのように生まれ変わりながら発展し続けたい」といった願いが込められています。3代目となる「PU\_PA®Ⅲ」は、コネクテッドや自

動運転を意識し、帝人の技術を融合することにより製作した電気自動車で、自動車や部品のメーカーとの共同開発を視野に、同社の技術をアピールする狙いもあります。

ボディには、鉄の約10倍の強度を持ちながら、重さが約4分の1と軽量な炭素繊維「テナックス™」を使用しています。ツアーでは、アルミに厚さ0.1ミリメートルの炭素繊維シートを貼ったプレートと、貼っていないプレートの強度を比較する様子も中継されました。また、自動運転を見据えて「お先にどうぞ」といった歩行者へのメッセージを前方部分に表示させるサインージ機能を装備するなど、環境価値と安全性を追求した「未来のクルマ」を見ることができました。

また、スタジオ入口付近では、耐久性や耐熱性に優れたアラミド繊維「テクノラ®」製のロープで吊った受付カウンターなど、帝人グループを代表する素材や実装例についても説明を受けました。

### 「Life Style」「Healthcare」「Safety」ゾーン

続く「Safety」ゾーンでは、超軽量天井材「かるてん®」を紹介しています。開発のきっかけは、天井の落下被害が大きかった東日本大震災です。「安全な天井」を強く求める声を受けて、軽量で、割れにくいだけでなく、吸音性・断熱性に優れた天井材を開発しました。実際に「かるてん®」を落とす様子が中継され、紙のようにふわっと着地した映像から、その軽さが伝わってきました。また、「かるてん®」はインクジェットによるプリントも可能で、インテ



ふわっと落ちる「かるてん®」

リアとしても評価され、ショッピングモールや空港施設で採用されています。このほかにも、耐熱性に優れた繊維を使用した消防服の実用化などについても紹介があり、「安心・安全・防災」の面においても、帝人グループの技術が私たちの暮らしを支えていることを実感



#### ■アクセス情報

- 住所：東京都千代田区霞が関3-2-1 霞が関コモンゲート西館
- 入場料：無料 ●開館時間：10：00～17：00 ●休館日：土曜・日曜・祝日
- 予約：完全事前予約制（社員を介したお客さま、取引先、関係先の見学のみとなっています）

しました。

「Healthcare」ゾーンでは、帝人グループが手掛ける医療用医薬品や在宅医療機器について紹介を受け、また、予防や健康増進の分野で展開している機能性食品などについても知ることができました。

「Life style」ゾーンでは、ニトリと共同開発したランドセルが紹介されました。ランドセルのふたには傷が付きにくい帝人の人工皮革「タフガード®ライト」が使用されています。非常に硬い真ちゅう製のブラシでこする様子も中継されましたが、全く傷がつかなかったことに驚きました。また、背中部分には、通気性に優れた人工皮革「エアリー®」が採用されており、夏場に汗をかいても快適に過ごすことのできる工夫がされていました。

今回の取材を通して、帝人グループの唯一無二といえる技術力の源泉は、イノベーションを創出するための研究開発への投資や、多様な人材や考え方を受容する企業文化に支えられていることを実感しました。



#### 社会広聴会員からの質問

**Q**「テイジン未来スタジオ」の「未来」にはどのような思いが込められていますか。

**A**帝人グループは、「未来の社会を支える会社」を長期ビジョンに掲げ、持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。研究開発や事業創出に資する場である当スタジオを起点に、この理念に共感するお客さまと協働で「一緒に未来を創っていきたい」という思いを込めて「未来」と名付けました。

**Q**コンセプトカーは、商品化されていますか。

**A**商品化はしていませんが、高機能素材や複合成形材料を提供する帝人グループの総合力を具体的な形でアピールする看板展示品となっています。

**Q**環境問題に対してはどのような取り組みを実施していますか。

**A**CO<sub>2</sub>排出については、2030年度までに2018年度比30パーセント削減、2050年度には実質ゼロを目標に、ロードマップを策定し、全社一丸となって取り組んでいます。具体的には、複合成

形材料のリサイクル・リユース・リデュースを目指した研究開発や、石油由来原料に代わるバイオ由来原料からアラミド繊維を生産する技術開発など、様々な取り組みを行っています。当スタジオにも使用済みのペットボトルを原料としたTシャツなどが展示されていますが、リサイクルポリエステル繊維「エコペット®」を通じた環境への取り組みは、他社に先駆けて25年前から行っています。また、地球温暖化への意識啓発の一環として、電気自動車によるカーレースに参戦する「エンビジョン・レーシング・フォーミュラEチーム」を支援しています。



「エンビジョン・レーシング・フォーミュラEチーム」

**Q**ヘルスケア分野における社会課題解決に向けた取り組みはいかがですか。

**A**帝人グループは、「予防・健康増進→治療→リハビリ・介護」のケアサイクル全体において、それぞれのプロセスに応じた製品・サービスを提供する地域密着型総合ヘルスケアサービスの拡充に注力しています。高齢化社会が進む中、地域で高齢者を支えるために地域包括ケアシステムの確立を重要課題と位置付けており、事業基盤を生かしながら、在宅医療営業・在宅ケア職・訪問看護師・理学療法士などからなる多職種チームと、うつやリハビリなどの高度・専門領域を担う「スペシャリティィー」を軸に、地域におけるチーム医療を支えています。また、チーム医療が円滑に行えるよう、患者さんの情報を迅速に共有するためのIT技術の活用にも取り組んでいます。

（文責 主任研究員 米山由起子）

取材日：2021年10月5日

## 株式会社資生堂

# 医療活動支援プロジェクト 「資生堂 Hand in Hand Project」



資生堂社員が医療従事者へ感謝の気持ちを表している様子



日本全国の店頭で同プロジェクトを展開  
(写真は広島県のゆめタウン福山店)

資生堂は「BEAUTY INNOVATIONS FOR A BETTER WORLD (ビューティーイノベーションでよりよい世界を)」を企業使命と考えています。企業として成長するだけでなく、本業のビューティービジネスを通じて社会課題を解決し、人々が幸せになるサステナブルな社会を実現することを目指しています。

新型コロナウイルス感染症が流行している社会情勢を踏まえ、全国の医療従事者に敬意と感謝の意を伝えることを目的に、同社は「資生堂 Hand in Hand Project」を2021年2月1日～6月30日の期間で実施しました。

このプロジェクトは大きく2つに分けられます。1つ目は、正しい手指の消毒による感染予防と、手洗いや消毒による手荒れを防ぐハンドケアを実施する「手守り習慣」を呼び掛け、一人ひとりの感染拡大防止に努めることで、医療現場の手助けにつなげるといふものです。

2つ目は、プロジェクト期間中、同社が販売する対象商品のハンドソープ・消毒液・ハンドクリームの利益などを医療現場のサポートのために寄付するという



「資生堂 Hand in Hand Project」専用のロゴマークを作成し、特設ホームページ・SNSなどを通じて広く発信

ものです。

前述の2点については同社ホームページ上の特設ページやSNS、YouTubeなどを通じて発信され、1600を超える企業や団体からも賛同を得ました。また、2月～6月までの期間で、総額5億377万1457円の寄付金が集まり、7月26日に公益社団法人日本看護協会に寄付されました。この寄付金は、全国の医療現場での医療活動の支援に役立てられています。また、同社製のハンドクリームも4月に日本看護協会へ3万個寄付されました。

資生堂は、「新型コロナウイルス感染拡大の抑制に関して、当社にできるあらゆる可能性を考え、即実行していきたい」(魚谷雅彦社長兼CEO)という方針に基づき、化粧品会社である同社の持つ知見・技術・設備を生かし、これまで様々な対策を検討・実行しています。「資生堂 Hand in Hand Project」を含め、今後も新型コロナウイルス対策に向けて様々な支援を行っていきます。

(文責 主任研究員 中井貴幸)

## 西武鉄道株式会社

# 環境活動・地域貢献活動 プロジェクト



西武 旅するレストラン「52席の至福」



芝桜の苗を植栽する様子

西武鉄道は、自然環境、地球環境の保護や地域との共生を掲げる西武グループのグループビジョンにのっとり、2016年5月より「環境活動・地域貢献活動プロジェクト」に取り組んでいます。このプロジェクトは、秩父エリアを中心とした自治体が推進する環境活動に、西武鉄道が沿線内外からの参加者を誘致することで、埼玉県・秩父エリアをはじめとする沿線各地域の活性化を目的としています。また、環境活動の目的地である秩父エリアへは、秩父の自然をモチーフにした「西武旅するレストラン『52席の至福』」の車両で移動し、車内では、食育インストラクターによる秩父の食材や郷土食をテーマとした食育ワークショップを実施して



ツツジ植樹の様子



星空観賞会の様子

います。

2020年度は、橋立鍾乳洞見学（秩父市）、あしがくぼの氷柱見学（横瀬町）など年間6回の活動に258名が参加しました。環境活動・地域貢献活動に関心のある50代・60代以上の参加者に加え、化石レプリカづくり体験、木工体験など子ども向けの活動を夏休みに企画したことにより、10代以下の参加者、その親世代に当たる40代の参加者が多く見られました。また、遠出が難しい状況の中で家族の思い出づくりに参加した方も多く、「電車内での食育ワークショップが良かった」「来年の芝桜の時期にまた来たい」「今回植えたツツジをまた見に行きたい」といった声が多数寄せられ、この活動をきっかけに多くの参加者が秩父地域に興味・関心を持ったことがうかがえました。

2021年度の活動はジオパーク体験学習（秩父市）、美の山整備活動（皆野町）、羊山公園整備活動（秩父市）、岩畳見学（長瀨町）などで、今後も「環境活動・地域貢献活動プロジェクト」が秩父の新しい魅力を伝え、秩父エリアをはじめとする沿線地域の活性化の一助となるよう、活動を推進していきます。

（文責 主任研究員 大藤由貴）

# コロナと結び付け SDGsを分かりやすく解説 ～ 池上 彰氏が講演 ～



経済広報センターは、小・中学校の教員向けにSDGs教育セミナーをオンラインで実施しました。このセミナーには、1200人を超える教員に参加いただきましたが、特に注目されたのは、テレビなどで活躍するジャーナリスト、池上 彰氏の講演でした。SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）を新型コロナウイルス感染症と結び付け、分かりやすく、しかも興味深く解説されました。その概要を社会広聴会員の皆さまにもご紹介したいと思います。なお、本稿では、池上さんの語り口をそのまま掲載しています。池上さんが目の前で話しているかのように感じていただけるのではないかと思います。



ジャーナリスト  
**池上 彰** 氏  
(いけがみ あきら)

(2019年) から新型コロナウイルスの感染が始まりました。あっという間に世界中に広がってしまいましたでしょ。本当に地球って広いようで狭いになって、こう思うんですね。『地球全体をどうするのか』ってことを考えなければいけない、それがSDGsなんだよ』と一気に説明しました。

そして、これまでの社会貢献活動やCSR（企業の社会的責任）など、SDGsとどう違うのかについて、こう説明しました。

「2001年に、『ミレニアム開発目標』というのを、国連が定めたんですね。これ、ミレニアム、つまり2000年に『さあ、特に開発途上国のために何ができるか、先進国がいろんなお手伝いをしましょう』と。で、それなりのことはできたんですけど、おそらく日本の多くの人が、こんなことがあったっていうことを知らないんじゃないでしょうかね。開発途上国が対象だったものですから、なんか人ごとみたいに終わってしまったんですね。で、その反省もありまして、2015年に国連で、これをとにかく国連加盟国みんなで行おうじゃないかと言って、新しいSDGsが決まったんだということですね。ご存じのように国連って様々な政治のことで対立しますよね。国連加盟国みんな、『じゃ、一緒にやりましょう』って決められるっていうのは、実に珍しいことなんですね。それぐらい世界中の国々が危機意識を持っているということだと思います」。

## ▼「地球全体をどうするかを考える」

「SDGsっていうだけで、なんか本当に硬い表現ですよ。『持続可能な開発目標』って日本語に訳しても、やっぱり硬いですよね。」

池上氏は、テレビ同様、柔らかな語り口で、こう語り始めました。

「これ、要するに、子どもがこれから大人になり、あるいは年を取って、子どもの子ども、さらには、これからもずっとこの地球の上で暮らしていくことができるかどうか。今、SDGsに取り組まないとこの地球が大変なことになるんだよということです」と続けました。

そして、世界中に広がるコロナに絡めて、「一昨年



## ▼「情けは人のためならず」

そして、話を一転させました。

「よく『情けは人のためならず』って言葉がありますでしょ。あれ、勘違いしている人もいますけどね、『情けをかけるとその人のためにならないから』っていう意味じゃないですよ。情けをかけるとその人がまた他の人に情けをかける、ぐるりと回って、結局、自分たちにとってもいいことが起きるよというのが、本来の『情けは人のためならず』ということですね。SDGsって、まさにそういうことだと思うんですよ」と興味深く説明しました。

## ▼コロナを考えても「世界はつながっている」

池上氏はまた、現在のコロナ禍を例に「SDGsの17の目標の3番目に『すべての人に健康と福祉を』ってあります。途上国の様子を見ると本当に衛生状態が悪いところがあります。『その人たちのために何かできないかな』といって、何かやってあげてる、みたいに思いますけど、そういう途上国には、実は未知のウイルス、様々な病原体というのものもあるわけですよ。そこで広がったウイルスがあつという間に日本までやって来て、また、私たちがその未知のウイルス、病原体によって苦しむことがあるわけですよ。『すべてはつながっているんだよ』と思いますね」と語りました。

## ▼「つかう責任」

そして、池上さんは身近な例で説明します。

「途上国が貧しいままでいいわけありません。悪循環から抜け出すために私たちに何ができるのかということです。ここで言いますと、12番目に『つくる責任、つかう責任』なんていうものもあります。例えば、皆さん、チョコレートが好きな人、結構多いじゃないでしょうかね、このチョコレートの原料になるカカオは、アフリカなどで採られているわけですけど、実は、これ大変な児童労働で、本当に貧しい、ほんとにわずかな報酬しか得られないでカカオを採取している子どもたちがいっぱいいるんですよ。あるいは、コーヒーも、コーヒー豆を収穫している東南アジアですとか、アフリカですとか、そういうところの人たちも、貧しい人たちがそのまんま貧しいままでいいんでしょう

か。この人たちもきちっと働いたら、ちゃんとした給料が支払われるという、そういうことをやっぱり私たちはしていかなければいけないんじゃないか。なんでこれはこんなに安く買うことができるんだろうか、なんでこんなにおいしいものが安いんだろうか。それは、もちろん、途中でいろいろ努力している方がいらっしゃるわけですけど、そもそも、そういう原料を作っている人たちが非常に貧しいままの状態になっているんだということは、地球全体のことを考えると、決していいことではないわけですよ。」

## ▼「やればできる」

そして、講演時間も終わりに近づきました。

「とりわけ、私たちが世界全体のことを考えるときに、地球温暖化、いわゆる気候変動というのが大変大きな深刻な問題になっています。これにどう取り組むのかということに、コロナで色々仕事が止まってしまいましたでしょ。工場が止まってしまった、自動車や飛行機が止まった途端、どうですか、世界中で海がきれいになったり、空気がきれいになったりしましたでしょ。つまり、やればできるんですよ。でも、コロナでみんなが仕事をやめたからこうなったわけで、これは持続可能ではないですよ。だから、私たちが働き続け生活できるような持続可能、維持しながら、やればできるんだってことを、このとき、私たちは思ったのではないのでしょうか。」

いかがでしょうか。「SDGsとは何か」と本を読むのとは違った、SDGsに対する理解ができたのではないのでしょうか。



(文責 常務理事・国内広報部長 佐桑徹)

## カルビー広島工場

カルビー株式会社

2021年9月6日、「生活者の企業施設見学会」を「カルビー広島工場のオンライン工場見学」で開催し、社会広聴会員32名が参加しました。

### ■概要説明

カルビーは「私たちは、自然の恵みを大切に活かし、おいしさと楽しさを創造して、人々の健やかな暮らしに貢献します。」という企業理念の下、時代とともに変化する消費者のニーズに応えた商品を開発し、新たな食の価値を創造しています。

新型コロナウイルス感染症拡大を契機に、実際の工場見学を中止し、2020年11月より清原工場をオンライン見学を開始しました。現在は北海道・広島工場を加えた3工場で実施しています。

今回は「やめられない、とまらない♪」で親しまれている「かっぱえびせん」を製造する広島工場を見学しました。



オンライン工場見学の様子

### ■見学の様子

#### カルビー広島工場の歴史

参加者はまず、カルビー広島工場についての説明を聞きました。広島工場（広島市宇品）は1949年に設立されたカルビー第1号の工場です。2006年に広島県廿日市市に移転した現在の広島工場は瀬戸内海に面し、天気の良い日には宮島を望むことができます。見学会当日も秋晴れに恵まれ、エビをイメージして建てられたピンク色の工場建物が中継画面でも目を引きました。現在では「かっぱえびせん」「さやえんどう」のほか、土産商品なども製造しています。

#### 「かっぱえびせん」のヒミツ

次に「かっぱえびせん」の名前の誕生秘話や、おいしさのヒミツについて教えていただきました。

1955年「かっぱえびせん」の前身となる「かっぱあられ」に当時人気のあった漫画『かっぱ天国』に登場するキャラクターを採用し、「かっぱあられ」と名付けて発売したのが始まりです。

1964年に発売された「かっぱえびせん」には、刺身で食べることができるほど新鮮な天然エビ（キシエビやアカエビ、サルエビ、チクゴエビ、アマエビなど）が殻ごと使われています。50年以上も親しまれているおいしさのヒミツも学ぶことができました。

#### 安全・安心を担保する衛生管理

続いて、製造現場で着用する作業服についての解説を受けました。作業者は、真夏でも長袖長ズボン、帽子を2枚着用しています。外側に被る帽子は、髪の毛が抜け落ちて工場内に落ちることがないように、左右、後ろが長く、作業服の上着の中にしっかりと入れ込む仕様になっていて、上下ともポケットがありません。

次に、製造現場に入る準備をする「衛生準備室」の様子を視聴しました。「クリーンローラー」で作業服をコロコロとなで、髪の毛やほこりを丁寧に除去する様子や、タイマーをセットして決められた時間手洗いを行う様子を見て、一人ひとりが徹底した衛生管理を実行していることを知りました。

また、製造現場では異物が商品に紛れ込むのを防ぐため、ヘアゴムやばんそうこうは発見しやすい青色を採用しています。さらに金属検出機で発見できるように、中に金属の素材が使われています。こうした徹底した衛生管理によって、安全・安心な商品がつくられていることを理解しました。



使用禁止例

## ■オンライン工場見学の予約情報

カルビー工場見学ホームページからの予約制 URL: <https://www.calbee.co.jp/factory/>

●参加方法: Zoom ●実施日: ホームページ内のカレンダーで確認

●時間: 10:00~10:40 ●参加費: 無料

※詳細についてはホームページでご確認できます。



## 「かっぱえびせん」ができるまで

「衛生準備室」での準備を終えると、いよいよ製造現場へと向かいます。ここでは、製造現場からの中継を交えて「かっぱえびせん」ができるまでを見学しました。「かっぱえびせん」は、①原料を混ぜる ②蒸して生地にする ③生地を薄く延ばす ④乾燥させる ⑤カリカリに煎る ⑥味付けする ⑦計量して袋・箱に詰める ⑧出荷する、の8つの工程を経て出来上がります。

①②では、数種類のエビを細かく砕き、小麦粉と混ぜ合わせ、蒸して餅のような状態の「生地」にします。この生地は広島工場だけで生産され、他の工場へ運搬されます。

続く③④⑤では、生地を薄く延ばして「かっぱえびせん」の形状にカットし、十分に乾燥させた後「煎る」工程へと移ります。煎った後の生地は何倍にも膨らみ、画面越しでもその違いを確認することができました。油で揚げずに、煎ることでサクサクの食感を実現していることも分かりました。

⑥では、煎り立ての「かっぱえびせん」がしお味やのりしお味に味付けされ、コンベヤー上を流れていく様子が中継されました。運搬されている途中で金属検出機を通過し、異物が混入していないかを確認します。

⑦では、一袋の分量に自動で仕分けすることができる機械「自動計量機」が稼働している様子も中継され、参加者はリアリティーのある工場見学を体験しました。

数日かけて製造された広島工場の「かっぱえびせん」は、九州や中国、四国、近畿地方へと出荷されます。同工場で製造された商品のパッケージ裏面には、「製造所固有記号」の横にHIROSHIMAの頭文字「H」と記載されています。製造工場を確認するという楽しみと、生産者の顔が見えるという安心感を与えています。

工場見学ではクイズが出題されるなど、参加者との双方向コミュニケーションを実現しています。また、「かっぱパパ」「えびママ」「かっぱえびくん」などの愛らしいキャラクターも登場し、子どもから大人まで楽しめる工夫にあふれていました。

## クイズ

かっぱえびせんが出来上がるまでに  
どれくらいの時間がかかるでしょうか？

①約30分

②約3時間

③約3日



クイズの様子

## ■質問コーナー

最後に、参加者からチャットや事前に寄せられた質問にも答えていただきました。

- Q. 工場内を中継中、働いている人をほとんど見掛けませんでした。どこで働いているのですか。
- A. 広島工場では約200人が働いています。機械の点検や故障時の対応、包装工程において手作業で箱詰めを担当するなど、様々な場所で活躍しています。
- Q. 「かっぱえびせん」のおいしさを維持するために、人の味覚による検査なども実施していますか。
- A. 官能検査といって、実際に食して行う検査や、工場間で味のばらつきがないかを確認する検査も実施しています。理化学検査や官能検査などを併用して、品質管理を徹底しています。
- Q. 廃棄物はどのように処理されていますか。
- A. 菓子は堆肥や飼料として、袋は固形燃料などに、廃棄物のほぼすべてをリサイクルしています。
- Q. コロナ禍による生産量の変化はありましたか。
- A. 新型コロナウイルスの感染が拡大し始めた頃は、生産量が増えました。ご自宅でお菓子を食べる方が増えたと考えています。

(文責 主任研究員 米山由起子)

## 参加者からの声

### オンライン「生活者の企業施設見学会」 カルビー広島工場

齋藤明子さん（北海道在住）

「かっぱえびせん」は、身近なお菓子です。普段見ることのない製造過程が見学できたので楽しかったです。「かっぱえびせん」を食べながら見学すれば味や香りも感じられたでしょうから、買ってあげれば良かったと思いました。見学後の疑問に、チャットで対応くださる時間があったのは良かったです。

鶴田貞子さん（長野県在住）

「かっぱえびせん」の製造工程、大変興味深く拝見しました。何気なく選んでいた商品でしたが、天然のエビを無駄なく利用している工程を見て、必要な栄養素を取り入れた立派な製品であることに感動しました。これからは、嗜好品というよりも大事な食料としても利用させていただきたいと思います。また、こちらからの質問にも丁寧にお答えいただき、ありがとうございました。

成瀬敬介さん（愛知県在住）

コロナ禍のステイホームや在宅勤務時において、家族そろってカルビーのお菓子に、おなかもちも癒やされています。見学では、作業服をはじめ品質管理に真摯に取り組む工夫と姿勢を随所に見ることができ、一消費者としてカルビーのお菓子に対する安全と安心を感じることができました。「かっぱえびせん」の名前の由来や製造日数など、クイズ形式で説明いただき、おもしろさと楽しさを感じながらの工場見学となりました。

三浦久子さん（熊本県在住）

大変興味深く参加しました。「かっぱえびせん」が出来上がるまで3日間を要することに驚きました。製造場所が確認でき一層親しみを感じました。製造工程も当然ですが、機械化されていて安心しました。

## 「社会広聴会員」からの ご意見・ご感想

### オンラインセミナー「健康長寿社会をいかに実現するか」について

- 認知症を保障する保険があることを初めて知りました。家族が認知症になったときの、周りの家族の働き方、過ごし方など、もっと皆で話し合った方がよいと感じました。（30代・女性・東京都）
- 認知症になる前に、家族間での話し合いが必要だと思いました。生命保険協会が創設した、家族が保険契約の有無を確認できる「業界横断の契約照会制度」は良い制度だと思います。（40代・女性・神奈川県）
- 生命保険各社で取り組んでいる、認知症の予防・早期発見に向けた専用アプリや健康増進アプリなどの、デジタル技術を活用したサービスは心強いです。（90代・男性・東京都）
- 積水化学工業の「話食動眠」という考え方が興味深かったです。このような考え方を今から持ち、自分の健康寿命を延ばしていきたいと思いました。（20代・男性・東京都）
- 今まさに直面している問題ですので、非常に興味深く読みました。「脳の萎縮を進める8つのリスク」を肝に銘じます。（60代・女性・鹿児島県）
- 認知症の問題は、人生100年時代に避けて通れないテーマです。私も「話食動眠」を実践し、これからも元気に過ごしたいと思います。（80代・男性・大分県）
- 親の高齢化に伴い、認知症などの病気が現実味のあるものになってきています。セミナーでの具体的な対策はとても参考になりました。対応が難しいこともありますが、できることからしていこうと思いました。（30代・男性・東京都）
- 『ネットワーク通信』で、また新しいことを知りました。敬老会の会長をしているので、次回の役員会で「健康長寿社会をいかに実現するか」の記事の内容をかいつままで紹介したいと思います。（70代・男性・埼玉県）

## オンライン講演会「エネルギー問題の過去・現在そして未来」について

- エネルギーを歴史からひも解くという話が面白かったです。エネルギーのことは、すべての人がもっと考えていくべきテーマだと思います。(50代・女性・福岡県)
- 日本のエネルギーの海外依存度が88%とは、驚きました。何も無い国が今後どうしていくのか、日本人はあまり関心がないのではと思えてなりません。皆が考える必要があると思いました。(80代・男性・北海道)
- 新型コロナウイルス感染症が世界で拡大したことによってエネルギー問題にも影響があり、エネルギーを海外に依存してきた日本の課題が分かりました。(40代・女性・京都府)

## 「企業施設レポート」について

- アサヒ「スーパードライ」に特化したミュージアムがあることを知りませんでした。製造過程などに興味があるので一度訪れてみたいです。(50代・女性・大阪府)
- スーパードライ ホールの「泡アート」に興味を持ちました。体験ツアーに行ってみみたいです。(60代・女性・京都府)
- 「社会広聴会員からの質問」コーナーの「アサヒの森」に共感しました。「水の涵養能力」は森林の貴重な力です。また、森林の再生は国の重要課題なので、その先導的な取り組みとなってほしいです。(80代・女性・香川県)

## 「企業・団体のCSR活動」について

- 住友商事の「100SEED」は素晴らしい取り組みだと思います。教育こそがあらゆる社会課題解決の基盤づくりにつながることは確かです。(60代・男性・京都府)
- 住友商事の社員が高校生に行く「Mirai School」は、実体験を伝えることで、迫力のある授業になっているのだと思います。高校生も感激したことでしょう。(80代・男性・東京都)
- 武田薬品工業がグローバルな社会貢献活動をしていることを初めて知りました。コロナ禍において、医療関係への支援はとても大切なことだと思います。(60代・女性・神奈川県)
- 武田薬品工業の、寄付先を従業員の投票で決めるプログラムに驚きました。それらが実を結んでいることは、日本人の一人としてうれしい限りです。(80代・女性・兵庫県)

- 企業のCSR活動は、本業から大きく逸脱することなく、社会の課題に向き合うことが大切だと思います。(70代・男性・東京都)

## 「特集 企業の文化・芸術支援活動」について

- 祭りは、日本の文化や歴史でもあるので、ダイドールグループの祭りへの支援はうれしいです。(60代・女性・兵庫県)
- 「祭り文化の継承こそ、地域の持続的発展に不可欠であり、事業を通じて社会に貢献できる活動だ」とするダイドールグループの姿勢に共感します。伝統的な祭りへの取り組みが、若者が故郷を見つめ直す機会になればと思います。(70代・男性・群馬県)
- ダイドールグループのYouTubeでの動画配信を見ました。九州の祭りも取り上げられていてうれしく思いました。(50代・女性・福岡県)
- 凸版印刷が、「識字能力の向上が貧困からの脱出や、健康で文化的な生活を送る基盤となる」と考え、発展途上国における識字能力向上に向けて活動していることは立派だと思います。(70代・男性・愛知県)
- 凸版印刷のグローバルな社会貢献活動に興味深かったです。「貧困をなくそう」「質の高い教育をみんなに」という目標を、ぜひ今後も持ち続けてほしいです。(50代・女性・福岡県)
- トッパンチャリティコンサートは、ぜひ全国で開催してほしいと思いました。公演の動画配信も期待しています。(70代・男性・福島県)

## 「経済広報センターニュース」ほかについて

- 用語解説ページいいですね。外国語表現も多くなっているの、今後も継続してほしいです。(70代・女性・東京都)
- 今後、オンラインセミナーが増えていくのだと思います。オンラインだと場所を選ばず参加できることが魅力的だと思います。(40代・女性・埼玉県)
- 社会広聴アンケートは、一市民としての意見が言える場だと思いますので、必ず回答するようにしています。これからも情報発信に期待しています。(50代・女性・埼玉県)
- コロナが収まったら、リアルな講演会や見学会が再開されることを期待します。(60代・女性・栃木県)
- 顔写真入りの「参加者からの声」は新しいコーナーですね。会員の意見をしっかり聞いてくれるような気がします。(60代・女性・東京都)

# 経済広報センターニュース

## 日本経済新聞に意見広告を掲載

経済広報センターは、経済界の主張・考え方について社会の理解促進を図るため、また、当センターの活動を知っていただくため、新聞を活用した広報活動を行っています。2021年8月～11月のタイトルをご紹介します。内容は当センターのホームページ (<https://www.kkc.or.jp/>) でご覧いただけます。

- 2021年8月6日 「企業広報大賞はエーザイ」
- 2021年9月16日 「2021年度 教員の民間企業研修が終了」
- 2021年10月4日 「循環経済への取組事例を発信」
- 2021年11月11日 「『カーボンニュートラル行動計画』、始動」



### 2021年度 教員の民間企業研修が終了

初のオンライン研修  
約1,000人の教員が参加

経済広報センターは、経済界と教育界との対話促進活動の一環として、「教員の民間企業研修」を1983年から実施しています。2021年度は学校の夏休みで東京オリンピック・パラリンピックの開催期間外の8月16日から8月23日にかけて実施しました。新型コロナウイルスの影響により今年度はすべての研修が初のオンライン形式での開催となり、982人の教員が41の企業・団体の研修に参加しました。

「教員の民間企業研修」とは？

一般財団法人  
経済広報センター <http://www.kkc.or.jp/>

2021年9月16日 日本経済新聞掲載



### 循環経済への取組事例を発信

「サーキュラーエコノミーに関する取組事例131件をWEBサイトに掲載」

経団連は、環境省・経済産業省とともに「循環経済パートナーシップ (Japan Partnership for Circular Economy)」(略称: J4CE※ジェイフォース) を創設し、国内の企業を含めた幅広い関係者の循環経済への更なる理解醸成と取組の促進を目指して官民連携活動に取り組んでいます。9月2日には、J4CEのWEBサイトを開設し、日本企業による131件の取組事例を掲載しました。循環経済への流れが世界的に加速するなか、日本経済界は、内外の循環経済の促進に貢献していきます。

詳しくは

経団連 循環経済

一般財団法人  
経済広報センター <http://www.kkc.or.jp/>

2021年10月4日 日本経済新聞掲載



### 「カーボンニュートラル行動計画」、始動

経済界は気候変動対策に主体的に取り組んでいます

経団連は、新たに「カーボンニュートラル行動計画」を取りまとめました。各業界は、2050年カーボンニュートラルの実現に向けたビジョンを策定し、CO<sub>2</sub>排出を大幅に削減するイノベーション等に取り組めます。同時に、短中期的にも、BAT (利用可能な最良の技術) の最大限導入の下、厳格なPDCAサイクルを回して、CO<sub>2</sub>排出を引き続き着実に減らします。このように、経済界は、気候変動問題に主体的に取り組む、日本さらには世界のカーボンニュートラルの実現に貢献していく決意です。

詳しくは

一般財団法人  
経済広報センター <http://www.kkc.or.jp/>

2021年11月11日 日本経済新聞掲載

## 用語解説

このコーナーでは、最近よく耳にする言葉や略語になっていて分かりにくい言葉などを解説します。

### 「カーボンニュートラル」とは？

カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることを意味します。

2020年10月、菅義偉内閣総理大臣(当時)は「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。

「排出を全体としてゼロ」というのは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」\*から、植林、森林管理などによる「吸収量」\*を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味しています。

カーボンニュートラルの達成のためには、温室効果ガスの排出量の削減・吸収作用の保全および強化をする必要があります。

また、将来の世代も安心して暮らせる、持続可能な経済社会をつくるため、今からカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向けて、取り組む必要があります。

\*人為的なもの

(環境省ホームページより)

## 社会広聴活動 お問い合わせ先

### ● 経済広報センター

国内広報部 社会広聴グループ  
電話：03-6741-0021

### ● 経済広報センターホームページ

<https://www.kkc.or.jp/>

### ● 社会広聴活動のページ

入会・変更のページ

<https://www.kkc.or.jp/society/index.php>

詳しい活動内容を  
知りたい方はコチラ



## 2021 第5回「小学生クルマのある風景」フォトコンテストを実施 ～応募総数9779点から最優秀賞5点を選出～

経済広報センターは、小学生を対象に第5回「クルマのある風景」フォトコンテスト（後援：一般社団法人 日本自動車工業会）を実施し、2021年6月から9月にかけて作品を募集しました。

このコンテストは、将来のモビリティ社会を支えていくことが期待される若年層の関心を高めるべく、子どもたち（小学生）に、クルマへの親しみを覚えてもらい、魅力を感じてもらうことを目的に実施しています。

今回は、応募総数9779点（応募者数2657名）の中から厳正な審査の結果、最優秀賞5点、優秀賞10点、佳作10点の受賞作品が決定しました。



### 最優秀賞 作品



【乗せて】

加治屋秀星さん(北海道4年生)  
車で待っていたら、猫が、「乗せて」と前に乗ってきました。



【鏡】

鹿沼茜里さん(群馬県4年生)

家族でキャンプに行きました。車の後ろのガラスに、山の木々がきれいに映って鏡のようでした。

※受賞作品は、経済広報センターのウェブサイトに掲載しています。



【ねえねえ見て見てっ！】

古賀凜太郎さん(福岡県1年生)

ビー玉で遊んでいたときに、たまたま車が逆さまに映って面白かったです。



【ありがとうございます】

滝脇郁花さん(富山県4年生)

車のバックドアが半分だけ開くので、キッチンカーごっこをよくします。私と家族が交代で店員になります。



【窓をふく母ちゃん】

渡邊豪さん(大阪府2年生)

鳩のフンを落とされていたので、出かける前に掃除する母を隠し撮り。ちゃっかり自分も写ってた。

#### 【審査委員】

- 谷 和樹 玉川大学教職大学院 教授 ● 潮田正三 日本報道写真連盟 東日本本部理事
- 古川博一 日本自動車工業会 総合政策領域2部 担当部長 ● 佐桑 徹 経済広報センター 常務理事

#### 【総評】

審査は、テーマ性（クルマがどのような存在感を生み出しているか）、主題性（その写真で何を伝えたいのか、生活や季節、ストーリーが感じられるか）、表現性・独創性（視点や構図、アイデアが秀逸であるかどうか）などに重点を置き、総合的に審査を行いました。

今回は過去最多の応募があり、コロナ禍で家族を被写体にした作品が多く見られました。最優秀賞に選ばれた5点は、いずれも小学生らしい斬新なアイデアや着眼点で、子どもたちが楽しみに、家族の中心にあるクルマと接していることを感じさせる作品でした。

審査員は「日本にとって重要な基幹産業であるクルマについて、自身が撮影した写真を通して触れることができる、意義のあるコンテストである」「このコンテストが小学生の間で毎夏の話題にのぼり、子どもたちの思い出づくりを支えるものになってほしい」などと、コメントしました。

# 表紙のことば

「地方創生」には、「地域の活性化を図ることにより、将来にわたって活力ある日本社会を維持していく」という意味が込められています。日本の総人口が減少する一方で都市圏への人口の過度集中が課題とされる中、企業のテレワーク導入や学校の遠隔教育の推進、インターネット通販の利用拡大、コンサートやスポーツ観戦のオンライン化など、ポストコロナ時代における生活者の意識や行動の変容によって、これまでのような都市圏一極集中の価値観は揺らぎつつあります。

2022年の干支「壬寅(みずのえ・とら)」は、「次の生命を育む準備の時期」「動き始め、胎動」「成長」を表しているそうです。本誌は今年も、多岐にわたる新鮮な情報をタイムリーに皆さまへ発信し、「壬寅」にふさわしい活力あふれる日本経済界の動向や情勢をお届けしてまいります。



## 米山 由起子

ふと学生時代に少しかじったゴルフを再開しようと思い、久しぶりにゴルフクラブを取り出しました。ゴルフ好きだった父が誕生日にプレゼントしてくれた思い出の品です。「我慢のスポーツ、ゴルフを通して心を鍛えるように」という天国の父からのメッセージだと思っています。今年こそは堅忍不拔を心に誓って。

## 多田 優紀

明けましておめでとうございます。昨年は在宅ワークの利点と言っているのかわかりませんが、あることがルーティン化し、思わぬ効果が……。小さいことでも良い方向に向かっていると思うと気分も明るくなりますね。今年も頭の中にいくつか計画があります。さて、どうなるか。今年もよろしく願います。

## 大藤 由貴

質の良い眠りを求めて、熟睡できると評判の枕を買いました。半信半疑で使い始めてみると、予想をはるかに上回る寝心地！ぐっすり眠ると翌日も朝から元気に活動できて、脳と身体をしっかりと休ませることの大切さを改めて実感しているところです。この勢いで、熟睡できると評判の布団も買ってしまいそうです。今年も健やかな一年となりますように！

## 佐藤 亜矢子

プライベートでは手書きの手帳を愛用しています。昨年の手帳を見返すと、旅行などの記載はなく、何とも寂しい限り。観劇を予定していた日には「→オンライン」と変更になった記載もありました。今年は、行きたい所に行き、会いたい人に会う……そんな思いを巡らせながら2022年の手帳を用意しました。

社会広聴活動レポート

ネットワーク通信

2022年 No.89 新春号



発行／一般財団法人 経済広報センター  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階  
TEL:03-6741-0021 FAX:03-6741-0022  
発行日／2022年1月7日

<https://www.kkc.or.jp/>



社会広聴会員の入会、  
詳しい活動内容を知りたい方はコチラ